

審議会等の会議結果報告書

課所名	生涯学習課
-----	-------

会議名	令和4年度 諏訪市人権同和教育推進委員会
開催日時	令和4年9月29日(木) 10時00分～11時30分
開催場所	諏訪市公民館視聴覚室
出席者	(出席者) 鴨志田委員長、桜井副委員長、茅野委員、三澤委員、笠原委員、加藤委員、藤森委員、矢島委員 三輪教育長、関教育委員、細野教育次長、雨宮社会福祉課長、小林教育総務課長、宮阪生涯学習課長、中澤社会教育指導員、関沢生涯学習係長、笠原主査、丸山主任 (欠席者) 山岸委員、林委員、名取委員 (傍聴者) なし
資料	令和4年度 諏訪市人権同和教育推進委員会 次第 等

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

- 1、開会
 - 2、委嘱状交付(机上配布)
 - 3、教育長あいさつ
 - 4、自己紹介
 - 5、正副議長の選出
 - 6、報告
 - (1)人権・同和行政について
 - (2)学校教育における人権教育の取組について
 - (3)SOSの出し方に関する教育の推進について
 - (4)社会教育における人権同和教育の取組について
 - 7、協議
 - (1)今後の社会教育における人権同和教育の取組について
 - 8、その他
 - 9、閉会
- 【質疑意見一括】
- 発達障がい、周りから見ると障がいの有無は分からないが、当人は生きづらさを感じている。
 - 子どもたち自身からの SOS は出てきづらい。周りの皆でアンテナを高めて、自然に把握できるようになれば。一つのチームとして動いていくことが大切。
 - 子どもからの SOS 発信を促すためには、自分は大切にされるべき存在だと感じられるよう、学校、地域で子供の自己肯定感を高める取組が大切。
 - ヤングケアラーに対しては、助けってもらってよい、一人で背負いきらなくてよいというメッセージを出す。
 - 年々子どもの気持ちが安定しなくなっていることが気になる。
 - 子どもは大人に対して相談などできにくい場合がある。子どもの自己肯定感を高め、対等に向き合い話を聞く。信頼関係の構築は、スポット的に子どもと接するような立場だと難しい。学校教育が大切。
 - 親が無意識の虐待に気づきにくいように、15項目のチェックリストを作成した。人権教育の場で配布しては。
 - 虐待防止には地域との連携が求められる。異常を感じた時に通報できるような空気作りを。
 - 講演会のテーマとしては「自由にのびのびと生きる社会を目指して」のようなテーマが良いのでは。
 - 広すぎるテーマは集客が見込めず、焦点を絞ると一部のしか参加しないというのが一般向けの人権教育の難しいところ。
 - 「自由にのびのびと生きられる社会」は、様々な人権教育に共通すること。それぞれの分野で取組が必要。自己肯定感を高められるようにしていければ。